

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200140		
法人名	すまいるモダ株式会社		
事業所名	グループホームすまいるうれし館		
所在地	〒061-1406 恵庭市和光町4丁目8番20号		
自己評価作成日	平成24年2月2日	評価結果市町村受理日	平成24年4月2日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
<http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0171200140&SCD=320>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域にとけこんだ事業運営。独自のイベントで町内会に事業所の周知と理解をもとめている。町内会のボランティアの協力を得て良い関係を作っている。ネットワークの会を通して互いに交流をもちながら、よいことを取り込む努力をしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年3月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年に開設されたグループホームすまいるは、住宅地の中にバラのアーチのある広い庭を持つ洋館風の建物である。気候の良い時期になると、緑あふれる庭には東屋が設置され、利用者がお茶を楽しむなど、花のまち恵庭らしいたずまいとなっている。事業所では、利用者の「何かをしたい」という意欲を大切にしている。利用者の張りのある生活を支えるために、事業所から外に出る機会や、入居前の地域との繋がりが大切になっている。利用者の希望や状況に応じて、老人会などに参加できるように支援するなど、地域と協力しながら地域密着型サービスとして定着している。事業所では、理念とともに「良い対応のための6つのポイント」などを活用し、利用者を尊重し、利用者と職員双方が、事業所の名称ともなっている笑顔あふれる毎日をおくるためのポイントを、理解しやすい形で職員に伝えるなどの取り組みを行っている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で基本理念を復唱し、毎日の実践につなげている。	事業所の開設時に職員が策定した理念とモダグループの基本接客を毎朝職員が復唱している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時などにも地域の人たちに出会った際には挨拶をかわしたり、ゴミ拾いにも参加している。年2回のうち秋のゴミ拾いには参加できなかった。	隣接する同法人の高齢者アパートと合同で祭りを開催し、400名弱の参加があった。回覧板で事業所からの案内を発信する等の取り組みをしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所のボランティアの方たちの行事の際のお手伝いなどを通して認知症の方への理解を深めていただく機会がある。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告や、活動内容について報告をし、その際にはアドバイスを受けることも多い。	運営推進会議は定期的開催し、事業所の状況を説明するなど、地域に開かれた事業所となるように取り組んでいる。議事録を家族に送付している。	運営推進会議では、家族の参加が少なく課題となっている。参加を呼び掛ける議案の送付と、参加できない場合の意見のくみ上げなど、参加者の拡大と、参加できない場合にも、意向を反映する取組が期待される。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、活動の様子を伝え、行事もお手伝い頂いている。	運営推進会議には恵庭市と包括支援センターからの参加があり、会議以外でも相談に乗ってもらうことができる。また、事業所の祭りなどに来てもらい、実際の様子を見てもらうこともある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関に施錠はおこなっていないし、拘束はおこなっていない。	虐待防止の研修と身体拘束について、職員が外部で学ぶ機会がある。また、その際の資料は全職員が回覧し、理解を促している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は虐待防止の研修に参加することはできなかったが、スタッフは一人ひとり注意をはらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については今年度は学ぶ機会がなかった。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約の内容を確認していただき、疑問や不明な点についてはその都度、わかりやすく説明している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪時には利用者の様子をできるだけ詳しく伝え、意見なども聞くようにし、運営に努めている。	家族に対し、二か月おきに発行していた事業所の便りが中断しており、現在は随時の個別報告を行っている。来訪時や電話で家族の意向を汲み取るようにしている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その時々の利用者の状態に合わせ、早番や遅番をつくるなど、職員の意見や要望を取り入れ、運営している。	職員が利用者のケアの状態を見て、勤務時間帯の人員配分などに配慮している。また、法人では多くの介護保険施設を展開しているため、他施設への異動の希望なども助案している。	職員採用が別の部署で行われ、必ずしも現場に必要なスキルを備えた職員の採用とはなっていない場合がある。現在も夜勤などが一部職員に多い状態である。他施設では過重な勤務が虐待などに繋がった事例もあるため早急に取り組みが求められる。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材不足から人員を補充するために会社も努力はしているが、現場には負担がかかっている傾向がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はうれし館ではネットワークの会以外での研修を受講することは出来なかった。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	恵庭市グループホームネットワークの会を通して、交流する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に必ず要望や、困っていることなどを聞き、できるだけ安心して入居できるようにスタッフも心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも要望や不安なこと、ご本人の様子をよく聞き、できるだけ希望にそえるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どの方もまず、ホームになじまれることを希望され、スタッフも対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩という事を忘れずに、一人ひとりの個性を大切に、暮らしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも相談をし、意見なども聞き、取り入れるなどしている。家族と一緒に力を合わせて本人を支援する関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もし、希望があれば可能な限り周囲と連携し、その場へ向かえるように支援する。親しい人の面会時は本人の身体状況に配慮しながら居心地よく過ごしてもらえよう、気を配っている。	隣接するアパートから入居した場合は遊びに出かけたり、昔の馴染みが訪問した際には利用者とともにくつろげるように職員が配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に楽しく協力し合えるように言葉かけや雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了したご家族が改めて相談にこられたことはないが、遊びに来てくれる方がおり、交流がある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望は機会のある時に聞いている。また、聞く事が困難な人もわずかの言葉にも耳を傾ける努力をしている。	気持ちを察したり、しぐさや会話の中から把握した思いを介護記録に記載し、申し送りの際にも職員間で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居するときにある程度の情報は得られるがその他にも日々の会話や家族との会話からも情報を得、把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報は毎日の申し送りや会話により、スタッフ間に伝えられ、毎日の状況が把握されている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者は、スタッフに日々、様子を聞き、相談をし介護計画を作成している。	3か月ごとに利用者と家族の希望を踏まえた介護計画を作成している。生活歴なども参考にし「張りのある生活」を支えるための計画となるよう取り組んでいる。	ICFのプラン立ち上げシートなども活用しながら、きめ細かい計画を目指している。しかし、全職員の参加とはなっていない。職員の定着とともに、資質を向上させ、多角的な意見を計画に反映できるよう、職員を育成していくことが期待される。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録に記入しているが、もう少し詳しく記入する必要あり、1月から改善中。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合わせて可能なことは出来るだけおこなっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会からのお誘いを受け一部の人ではあるが、花見や餅つき会など参加させていただく機会がある。ただ、今冬、餅つき会に参加することができなかった。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	患庭市内の病院であればどこでも適切な医療を受けられるよう支援している。	医療機関の受診は原則家族対応としているが、利用者が入居前から利用していた医療機関に職員が通院介助を行うこともできる。その場合は医療と家族に適切に報告を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も直接、介護に携わっていることや、日々の状態を職員が毎日伝えることにより適切な受診や看護が受けられている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療的な問題に関しては看護師が対応し家族、病院関係者との連絡調整をおこなっている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特別な文書化などされていないが、一人ひとりの状況に応じて、家族との話し合い、方向を共有する等についてはできている。	現在、重度化や終末期に向けた事業所の考え方を整理し、文章化に向けて取り組みを行っている。家族等との話し合いとともに必要な連携についても継続して取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てではないが、研修に参加した。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練は昼、夜を想定しておこなわれている。人数は少ないが地域の方も協力をしてきている。	年2回の避難訓練を行っている。職員の救急救命講習も積極的に受講するようにしており、隣接する高齢者アパートに共同の備蓄品を完備している。	新人職員が入った場合でも緊急時に対応できるように、訓練やシミュレーションを継続して実施することが期待される。訓練には地域からも参加があるが、引き続き外部との連携の強化に取り組むことが大切である。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を把握した上で尊重する事を重要と考え実行している	さりげなさを基本とし、自尊心を大切にしている。職員の何気ない言動も相手にとってどう感じるかを話し合っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるようにはたらきかけている	個々に希望や申し出がある場合、可能な限り応じる様、心がけている			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合わせた、その人なりの規則正しい生活が送れるような支援をおこなう努力をしている			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立した方には本人の希望に沿うように、介護が必要な方は清潔を中心としたみだしなみに気を配っている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	色々なメニューを考え、出来る方とは野菜の皮むきや後片付けと一緒にこなっている	高齢者の特性や病気に合わせて職員が献立をたてている。行事や季節に合わせたメニューなどを工夫している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼力に応じてミキサー食やきざみ食にして対応したり嫌いなものには代替えするなどし、栄養バランスがとれるようにしている			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方によっては歯磨きにストレスを感じる方もおられるため、毎食ではない方もおられるが夜には必ずケアをおこなっている			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の様子や時間をみてのトイレ誘導などおこなっている	排泄パターンを把握し、トイレの誘導などを行っている。時間帯や利用者の体調も見ながらパッドなどを職員が検討しながら導入している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について職員は常に意識し、水分や食物繊維がとれるように努めている			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望や体調に合わせ、拒否がある時などは無理強いをせずにタイミングを計りながら声かけなどおこなっている	利用者からの希望により、同性介助にも対応している。ユニットごとに2か所の風呂があり、利用者は週2～3回の入浴を楽しんでいる。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠ができるよう、日中はできるだけ起きていてもらうようにしているが、本人の状態に応じて、昼間も休んでもらっている			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に処方が変わった際には看護師からの指示もあり、よく観察している			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、身体状況に合わせ、買い物、散歩、野菜収穫など支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏の間は天気の良い日はドライブをしたり、散歩にでかけるなどしている。家族の中にはよく一緒に外出される方もおられ、共に過ごす時間を大切にされている	気候の良い時期には公園などへ散歩に出かけることも多い。緑の多い庭には東屋があり、お茶やお菓子を楽しむこともできる。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、個々の状況からほとんど行っていない			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望の際にはいつでも電話ができるように支援している			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節を感じてもらえるような飾りをしたり緑を室内に置くなどの工夫をしている	2階の天窓など、採光の窓が多く設けられ、明るい雰囲気となっている。眩しすぎないように、ロールカーテンなどで調節できるようにしている。共用スペースにも、植物や利用者が一緒に作った作品が多く飾られている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で独りになれる場所を作っていない。気の合った利用者さん同士はソファや食卓で過ごしている			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに自由に家具を持ってきてもらっており、それらを安全に使えるよう支援している	利用者の安全に配慮した間取りとなるように、職員がアドバイスを行っている。仏壇や写真など、利用者がそれまでの生活との連続性を感じられるように配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所をわかりやすく表したり、表札を見やすくするなどして自分でトイレや居室にいけるように工夫している			